

国際政治学

講義12

抑止と安全保障(応用)

- ミサイル防衛(イージス・アショア): 抑止政策への含意
- 北朝鮮の核開発: 「敵基地攻撃」のコミットメント問題

早稲田大学
政治経済学術院
栗崎周平

国際政治学

講義12

抑止と安全保障(応用)

- ミサイル防衛(イージス・アショア): 抑止政策への含意
- 北朝鮮の核開発: 「敵基地攻撃」のコミットメント問題

早稲田大学
政治経済学術院
栗崎周平

河野防衛相「イージス・アショア」配備計画停止を表明

2020年6月15日 20時50分 自衛隊

河野防衛大臣は、新型迎撃ミサイルシステム「イージス・アショア」の山口県と秋田県への配備計画を停止する考えを表明しました。これにより日本のミサイル防衛計画の抜本的な見直しが迫られることになります。

「イージス・アショア」は、アメリカ製の新型迎撃ミサイルシステムで、政府は、山口県と秋田県にある、自衛隊の演習場への配備を計画していました。

[ホーム](#)[国民保護概要](#)[弾道ミサイル落下時の行動](#)[国民保護訓練](#)[国民保護研修会](#)[避難施設](#)[国民保護計画・国民保護業務計画](#)[ホーム](#) > [弾道ミサイル落下時の行動](#)

弾道ミサイル落下時の行動

弾道ミサイル落下時の行動について



弾道ミサイル落下時の行動について

弾道ミサイルは、発射からわずか10分もしないうちに到達する可能性があります。ミサイルが日本に落下する可能性がある場合は、国からの緊急情報を瞬時に伝える「Jアラート」を活用して、防災行政無線で特別なサイレン音とともにメッセージを流すほか、緊急速報メール等により緊急情報をお知らせします。

①速やかな避難行動

②正確かつ迅速な情報収集

行政からの指示に従って、落ち着いて行動してください。



国民保護ポータルサイト

武力攻撃やテロなどから身を守るために

事前に確認しておきましょう。
http://www.kokuminhogo.go.jp/gaiyou/shiryou/hogo_manual.html



首相官邸
ホームページ
www.kantei.go.jp/



Twitterアカウント
首相官邸災害・危機管理情報
@Kantei_Saigai



Jアラート（例）直ちに避難。直ちに避難。直ちに建物の中、又は地下に避難してください。ミサイルが、●時●分頃、●●県周辺に落下するものとみられます。直ちに避難してください。

メッセージが流れたら

落ち着いて、直ちに行動してください。

屋外に
いる場合

近くの建物の中か
地下に避難。

（注）できれば頑丈な建物が望ましいものの、近くになれば、それ以外の建物でも構いません。

建物がない場合

物陰に身を隠すか、
地面に伏せて頭部を守る。

屋内に
いる場合

窓から離れるか、
窓のない部屋に移動する。



近くに
ミサイル
落下！

●屋外にいる場合：口と鼻をハンカチで覆い、現場から直ちに離れ、密閉性の高い屋内または風上へ避難する。

●屋内にいる場合：換気扇を止め、窓を閉め、目張りをして室内を密閉する。

弾道ミサイル落下時の行動

[落下時の行動に関するQ&A](#)

[Jアラートによる情報伝達](#)

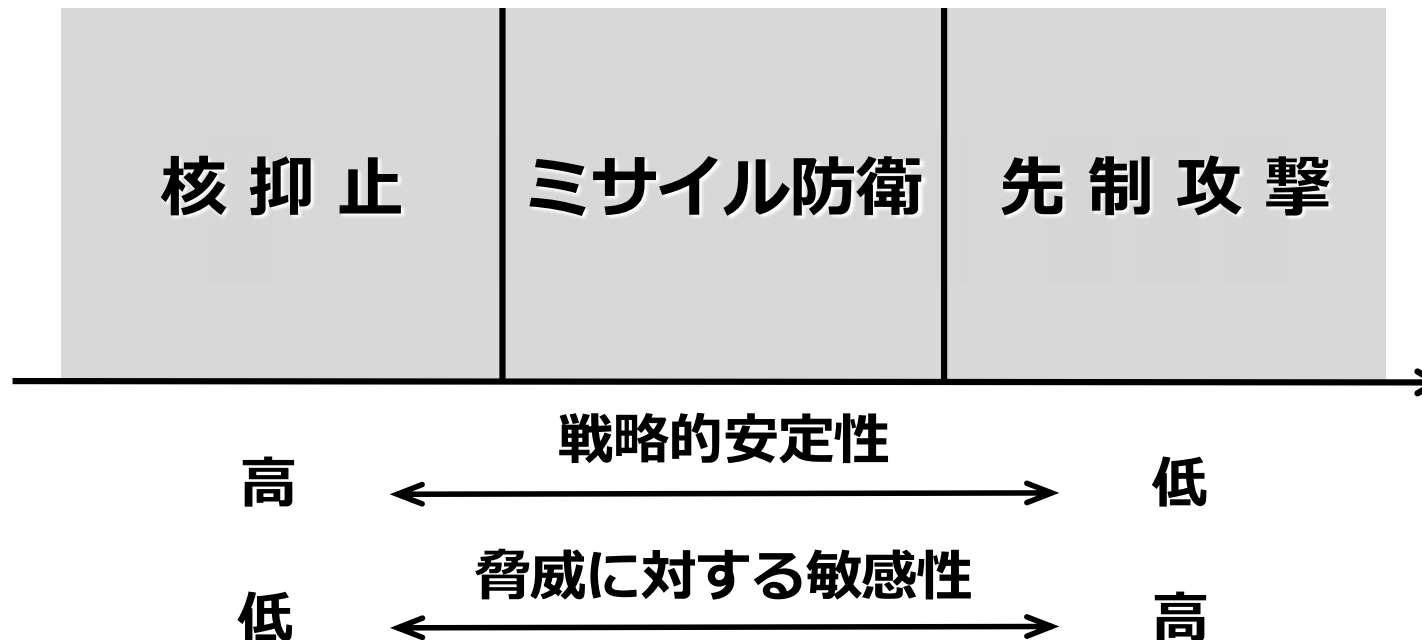
[Jアラートによる弾道ミサイル情報の伝達に関するQ&A](#)

[弾道ミサイル落下時における避難の必要性について](#)

ミサイル防衛戦略

ミサイル防衛戦略の有効性

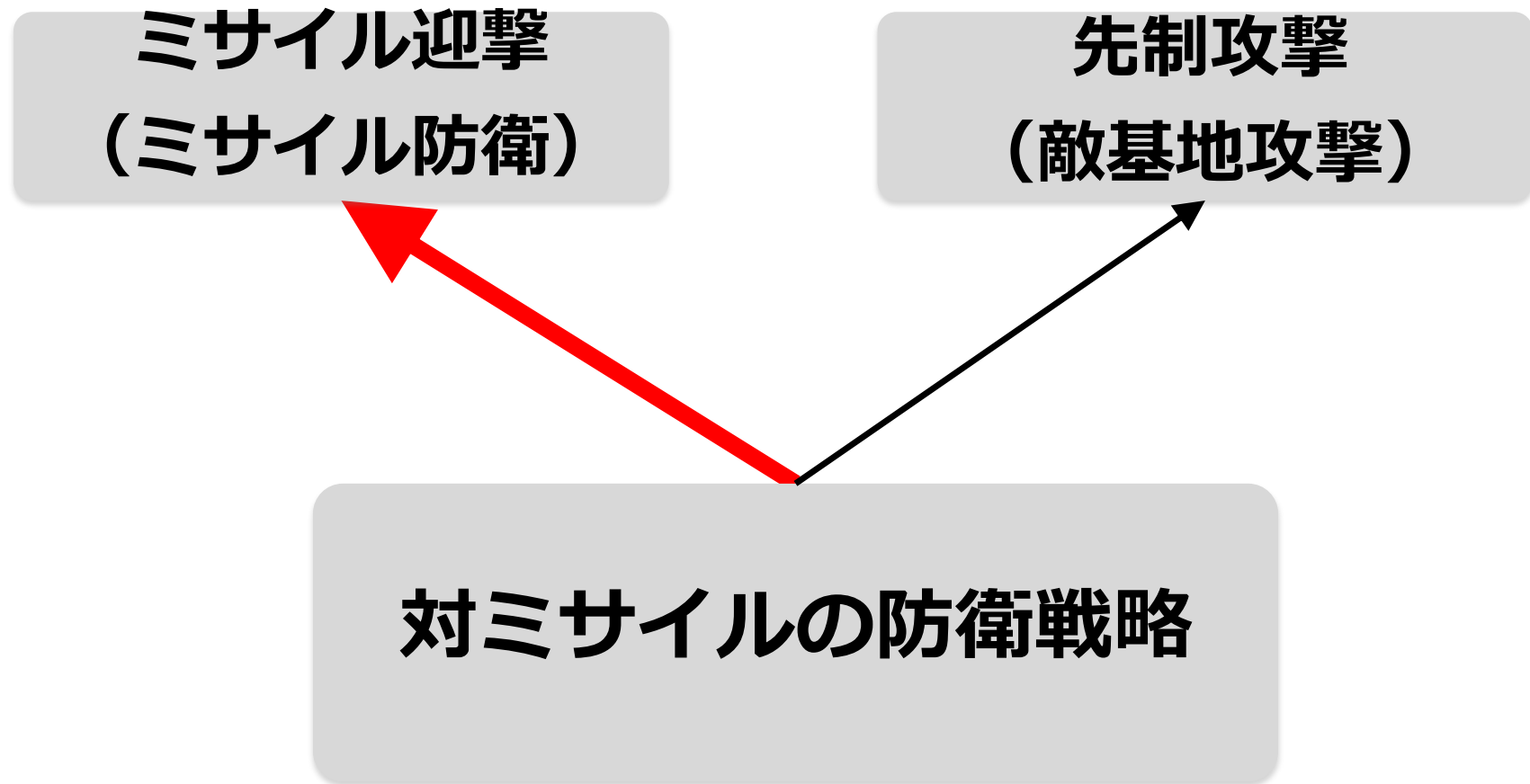
脅威のレベルが、核抑止の効かない、非対称的である場合を想定



核武力が非対称であるほど先制攻撃のインセンティブがある。
戦略的安定性が高い＝先制攻撃のインセンティブが低い。

日本の対ミサイルの防衛戦略

ミサイルを使用した防衛の2方法



日本のミサイル防衛戦略

北朝鮮の弾道ミサイルの脅威

- 小泉政権
- それ以前は、米国からの共同技術開発の要請にも躊躇
- 米国のMD構想(本土ミサイル防衛)を踏襲

3段階のミサイル防衛

早期警戒：米国の早期警戒衛星に依存した上での、自動警戒管制システム (JADGE) Japan Aerospace Defense Ground Environment

イージス艦：SM-3ミサイルによる高高度での追尾・迎撃

地上迎撃：パトリオットミサイル(PAC-3による地対空)

日本のミサイル防衛戦略

<http://www.mod.go.jp/j/approach/defense/bmd/>

防衛省:「BMD整備構想・運用構想(イメージ図)」



日本のミサイル防衛戦略

3段階のミサイル防衛

イージス艦：SM-3ミサイルによる高高度での追尾・迎撃



日本のミサイル防衛戦略

3段階のミサイル防衛

イージス艦：SM-3ミサイルによる高高度での追尾・迎撃

- SM-3ミサイル（迎撃ミサイル）80発ほど搭載
- 1000km 射程
- 精度はそれほど高くない
- 高性能レーダー： 目標補足「能力」よりも「運用」が論点
- 同時に10程度の目標に対して作戦
- 米国の後は日本が最初に配備。
- 海上自衛隊は6隻保有・運用(さらに2隻建造中)

日本のミサイル防衛戦略

3段階のミサイル防衛

地上迎撃：パトリオットミサイル(PAC-3による地対空)

- 弾道ミサイル迎撃ミサイル
- 精度は高い
- 半径20km（命中精度を下げれば35km）
- 全国16カ所配備：移動式
- 問題1： 全国をカバーできない
- 問題2： 高度15km迎撃（終末段階）→地上への被害
→ 高高度対応の要請 → THAAD

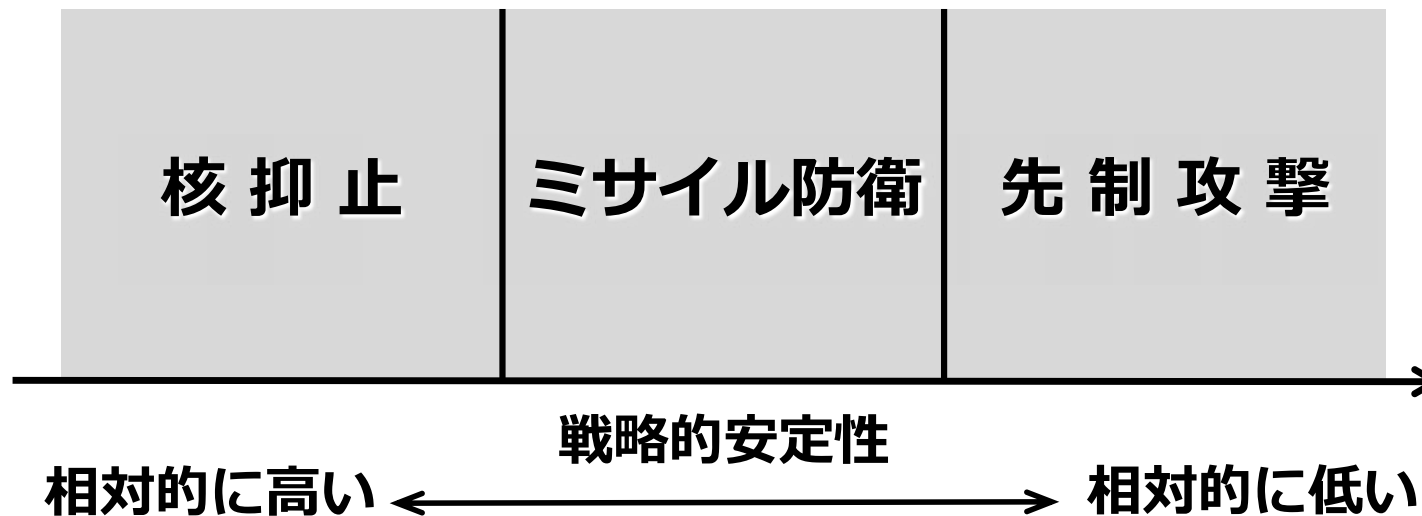
日本のミサイル防衛戦略

ミサイル防衛戦略の欠点

- ・技術的に命中精度に改善の余地
- ・攻撃兵器
- ・安全保障のジレンマを惹起

ミサイルは攻撃兵器

戦力の非対称が高いほど



ミサイル拡充は戦略的安定性を低める

[ホーム](#)[国民保護概要](#)[弾道ミサイル落下時の行動](#)[国民保護訓練](#)[国民保護研修会](#)[避難施設](#)[国民保護計画・国民保護業務計画](#)[ホーム](#) > [弾道ミサイル落下時の行動](#)

弾道ミサイル落下時の行動

弾道ミサイル落下時の行動について



弾道ミサイル落下時の行動について

弾道ミサイルは、発射からわずか10分もしないうちに到達する可能性があります。ミサイルが日本に落下する可能性がある場合は、国からの緊急情報を瞬時に伝える「Jアラート」を活用して、防災行政無線で特別なサイレン音とともにメッセージを流すほか、緊急速報メール等により緊急情報をお知らせします。

①速やかな避難行動

②正確かつ迅速な情報収集

行政からの指示に従って、**落ち着いて行動してください。**



国民保護ポータルサイト

武力攻撃やテロなどから身を守るために

事前に確認しておきましょう。
http://www.kokuminhogo.go.jp/gaiyou/shiryou/hogo_manual.html



首相官邸
ホームページ
www.kantei.go.jp/



Twitterアカウント
首相官邸災害・危機管理情報
@Kantei_Saigai

Screenshot



Jアラート（例）直ちに避難。直ちに避難。直ちに建物の中、又は地下に避難してください。ミサイルが、●時●分頃、●●県周辺に落下するものとみられます。直ちに避難してください。

メッセージが流れたら

落ち着いて、直ちに行動してください。

屋外に
いる場合

**近くの建物の中か
地下に避難。**

(注) できれば頑丈な建物が望ましいものの、近くになれば、それ以外の建物でも構いません。

建物がない場合

**物陰に身を隠すか、
地面に伏せて頭部を守る。**

屋内に
いる場合

**窓から離れるか、
窓のない部屋に移動する。**



近くに
ミサイル
落下!

●**屋外にいる場合**：口と鼻をハンカチで覆い、現場から直ちに離れ、密閉性の高い屋内または風上へ避難する。

●**屋内にいる場合**：換気扇を止め、窓を閉め、目張りをして室内を密閉する。

弾道ミサイル落下時の行動

[落下時の行動に関するQ&A](#)

[Jアラートによる情報伝達](#)

[Jアラートによる弾道ミサイル情報の伝達に関するQ&A](#)

[弾道ミサイル落下時における避難の必要性について](#)

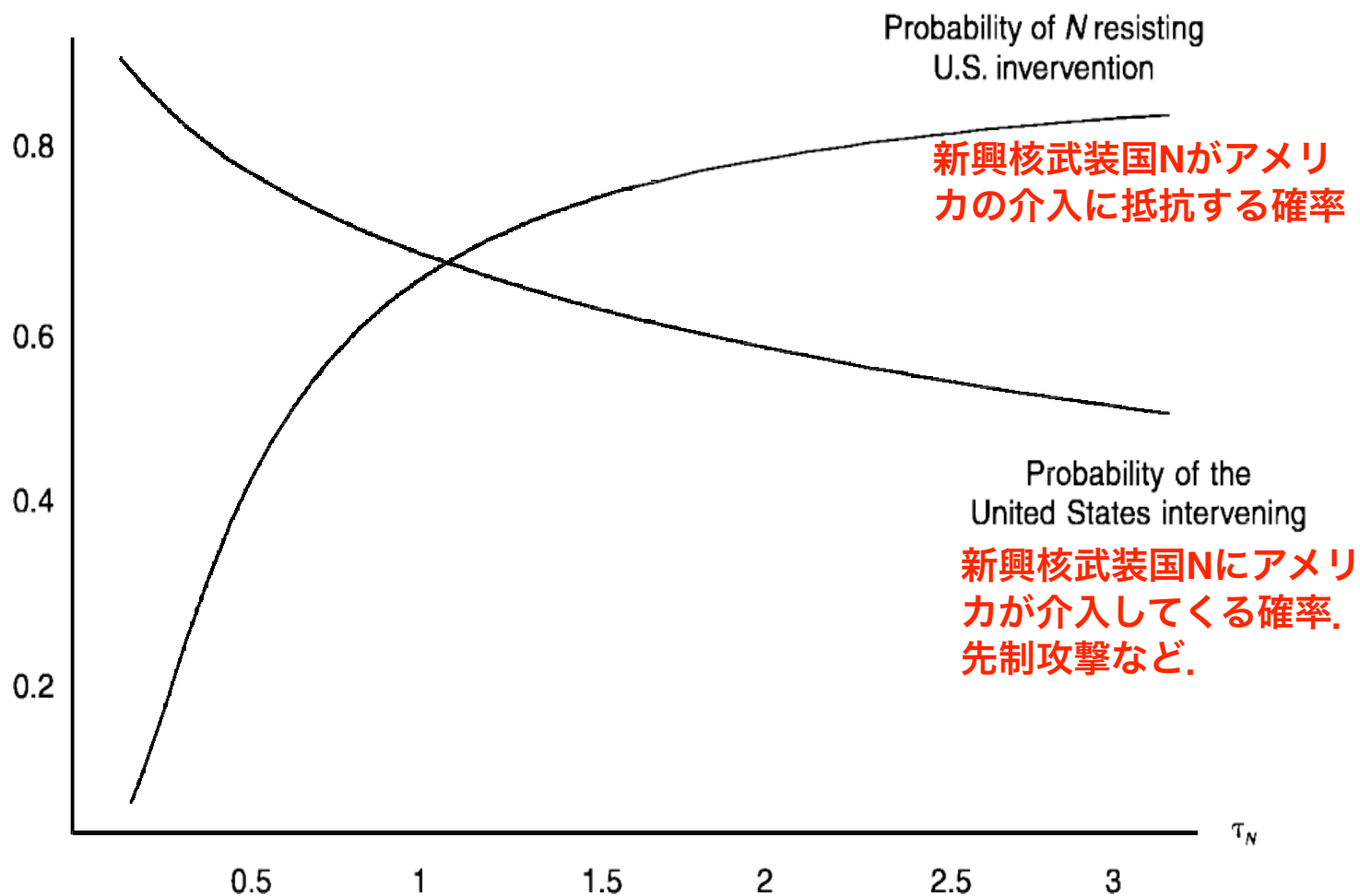
ミサイル防衛戦略の戦略的帰結

Robert Powell (2003) “Nuclear Deterrence Theory, Nuclear Proliferation, and National Missile Defense.” *International Security*, Vol. 27, No. 4 (Spring), 86-118.

- 冷戦期の米ソの核抑止 vs 新興核武装国への対処
 - ⇒ 抑止失敗（核攻撃）の条件の論理
- 核兵器をめぐる「信憑性」問題と瀬戸際戦略
 - ⇒ 抑止失敗（核攻撃）の条件の論理
- ミサイル防衛の戦略的帰結
 - ⇒ 新興核武装国に対する強制力と負の外部性
 - ⇒ 逆説としての「ミサイル防衛」ジレンマ

ミサイル防衛戦略の戦略的帰結

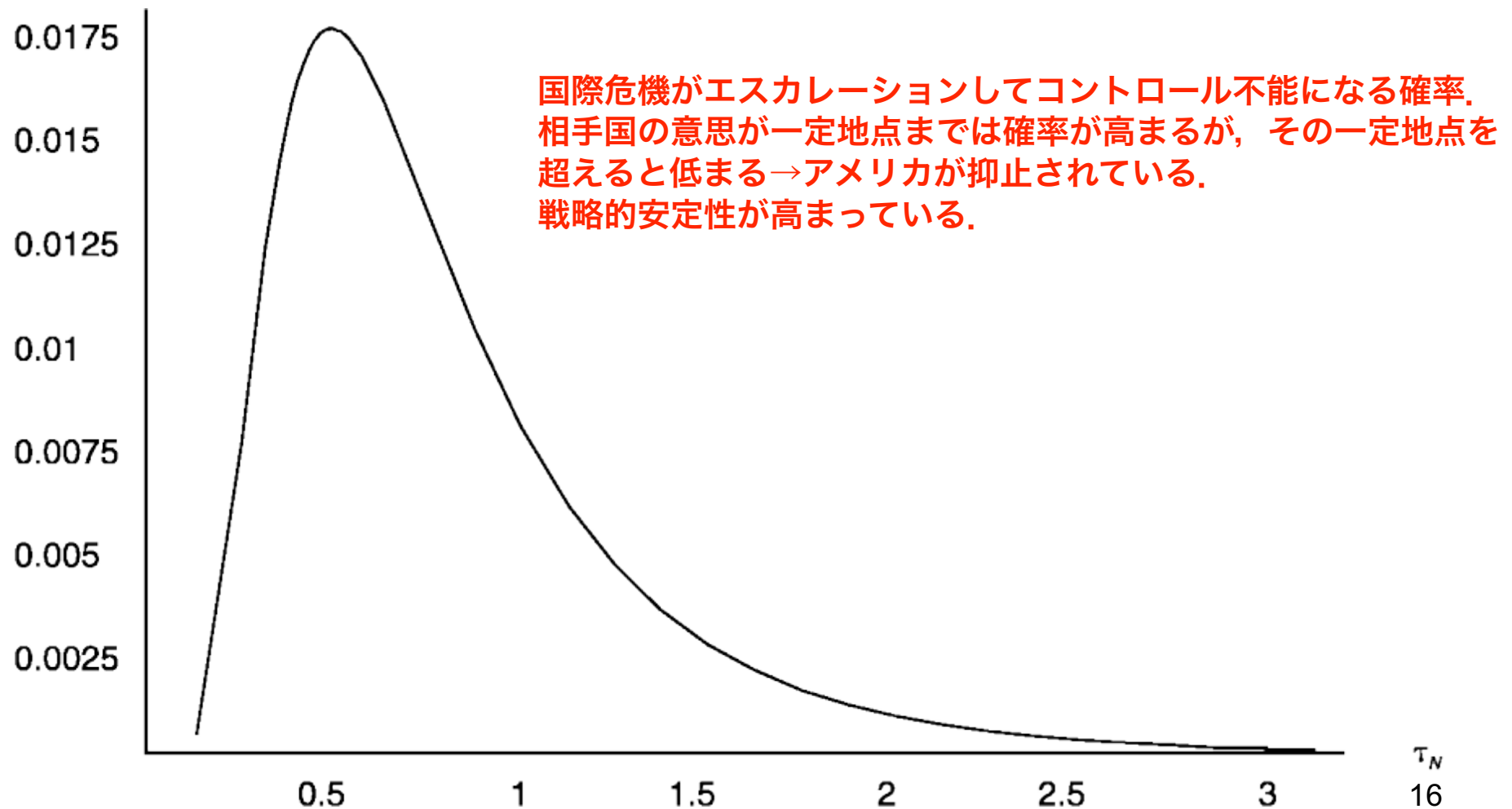
核武装国の「政治決意」と国際危機のエスカレーション確率



Nの抵抗意思が高いほどアメリカは介入しない

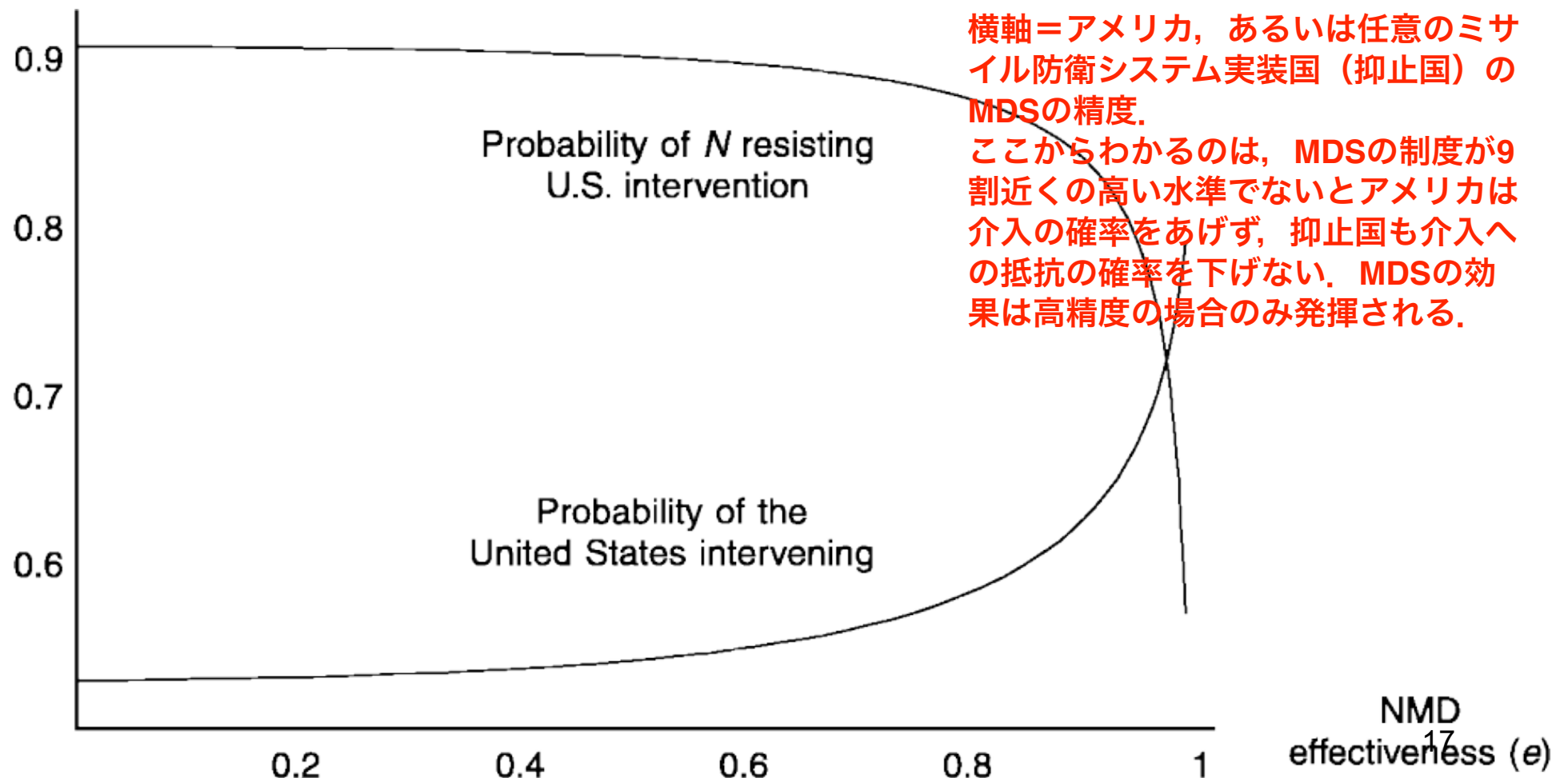
ミサイル防衛戦略の戦略的帰結

核武装国の「政治決意」と国際危機がコントロール不能になる確率



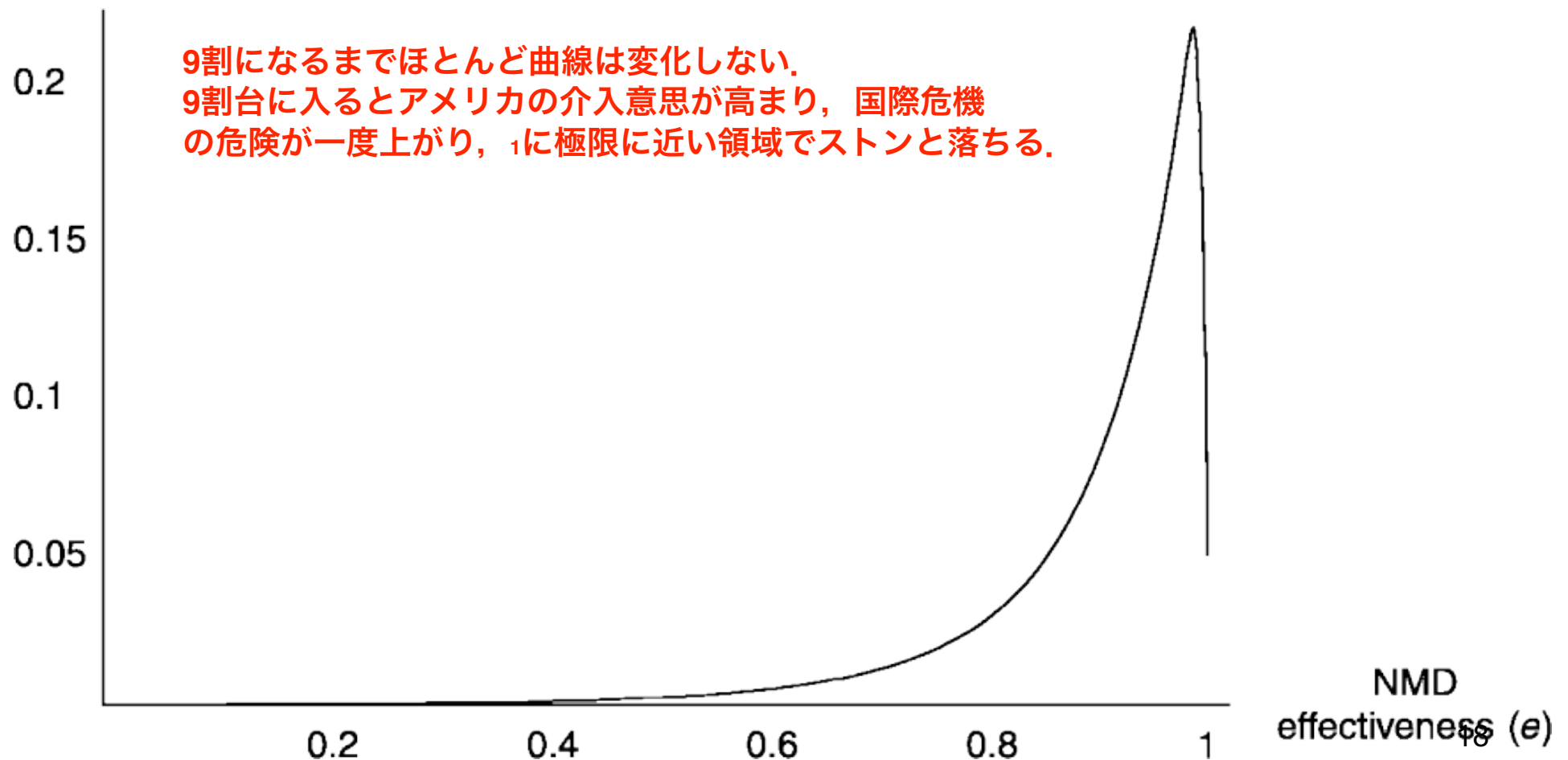
ミサイル防衛戦略の戦略的帰結

ミサイル防衛の精度と国際危機のエスカレーション確率



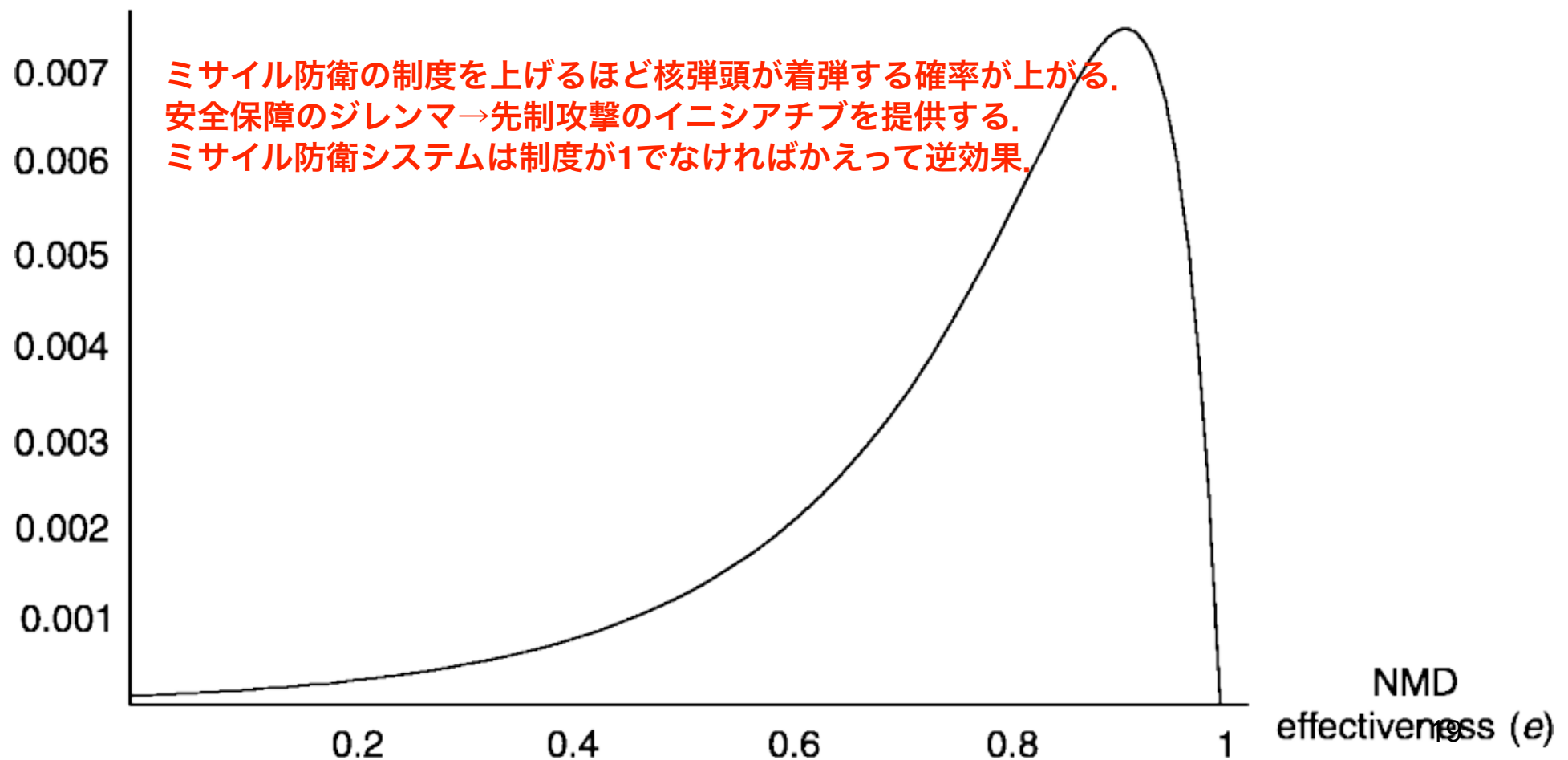
ミサイル防衛戦略の戦略的帰結

ミサイル防衛の精度と国際危機がコントロール不能になる確率



ミサイル防衛戦略の戦略的帰結

ミサイル防衛の精度と米国に核弾頭が着弾する確率



核兵器不保持の安全保障

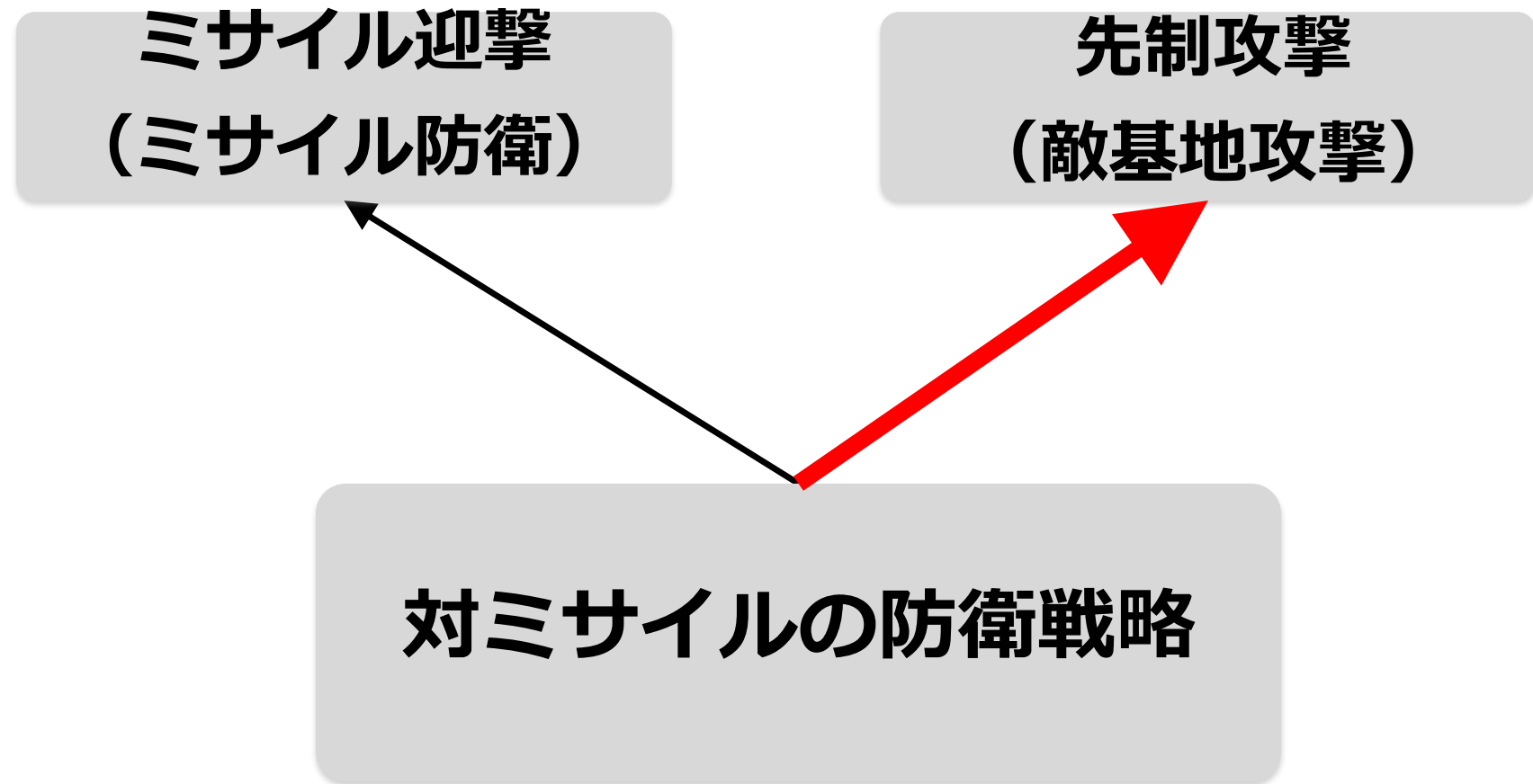
ミサイル防衛

- 弾道ミサイル迎撃ミサイル (Anti-Ballistic Missile)
- ICBM(第一撃能力)への防御
- ABMの配備は、核戦争のリスク共有を瓦解
 - 「恐怖の均衡」の瓦解
 - 先制攻撃への誘因を生み、戦略的安定性を瓦解

ABM制限条約(1972年)

- ABMによる核抑止の不安定化を排除
 - 互いに、第一撃に対する脆弱性を高める
 - 「恐怖の均衡」を確実なものにする
- ABM配備の制限(首都・ICBMサイロの二か所)
- 戦略核兵器のバランスを均等にする

対ミサイルの防衛戦略



国際政治学

講義12

抑止と安全保障(応用)

- ミサイル防衛(イージス・アショア): 抑止政策への含意
- 北朝鮮の核開発: 「敵基地攻撃」のコミットメント問題

早稲田大学
政治経済学術院
栗崎周平

北朝鮮問題と「敵基地攻撃」政策

敵基地攻撃能力保有を検討 安保戦略、今夏練り直し—安倍首相

2020年06月18日21時52分

安倍晋三首相は18日、通常国会の閉幕を受け、首相官邸で記者会見した。陸上配備型迎撃ミサイルシステム「イージス・アショア」の導入計画停止を受け、今夏に国家安全保障会議（NSC）で安保戦略を練り直す方針を表明。ミサイル攻撃を未然に防ぐため、発射前に相手の基地を攻撃する「敵基地攻撃能力」の保有も、検討対象とする考えを示した。

敵基地攻撃能力について、政府は憲法上許容されるとしても、保有を否定してきた。首相の発言は今後、議論を呼びそうだ。

[【政治記事一覧へ】](#) [【時事ドットコムトップへ】](#)



第201通常国会が閉幕し、記者会見する安倍晋三首相＝18日午後、首相官邸

北朝鮮問題と「敵基地攻撃」政策

「自民党が北朝鮮対策に本腰を入れ始めた。...安全保障調査会と国防部会...では、政府が導入を検討する敵基地攻撃が可能な巡航ミサイルなどについて、...国産化も含め積極的な整備を求める意見...」（産経新聞2017年12月12日）

「自民党は...北朝鮮の核・ミサイル開発が進むなか、海外のミサイル基地などを攻撃する能力を日本も持つべきだとする政府への提言を了承した。」（日経新聞2017年3月29日）

「「敵基地攻撃能力」の保有について、安倍晋三首相は...「現時点で具体的な検討を行う予定はない」と述べた」（日経新聞2017年8月6日）

→2019年以降の防衛（計画の）大綱では見送り

敵基地攻撃とは？

【「敵基地攻撃」提言に見られる二面性】

潜在的国が

- 攻撃を着手前に（ミサイル発射基地を）無力化する
- 攻撃力の無力化：先制攻撃 → 典型的な拒否的抑止
（先制攻撃はWeek 4のコミットメント、抑止はWeek 6の論題）

【「敵基地攻撃」に係る主な論点】

専守防衛の範囲内にある。法律はいくらでも作り換えられるもの。議題にしない。

- 専守防衛の法理 → 法律論的には既に決着
- 飽和攻撃に対するミサイル防衛 → 確率論的に自明
- 抑止力 → 理論・実証的に自明でない

敵基地攻撃のコミットメント問題

【コミットメント問題が戦争を招く3つのケース】

1. 力を巡る紛争（領土紛争、核開発）
2. 先制攻撃（ブッシュ・ドクトリン、敵基地攻撃）
3. 予防戦争（勢力変遷）



敵基地攻撃は先制攻撃なのでコミットメント問題が生まれる。克服せねばいけない。

敵基地攻撃のコミットメント問題

【国際紛争におけるコミットメント】

- S_1 と S_2 がある交渉解で x 合意するということは、将来に亘って x を履行しなければ意味がない
- 将来に亘って x を覆さないというメタ合意も必要
⇒ そのようなコミットメントの信憑性の確立は困難！
⇒ 今日 x で合意する意味がなくなる

先制攻撃 (Preemptive attacks) のコミットメント問題

コミットメント問題が戦争を招く2つ目のケース

【問題となる戦略状況】

新たな軍事技術・兵器システムの運用が戦術的優位性を与えるとき、双方の国ともに先制攻撃への誘因を持つ

敵基地攻撃＝先制攻撃の手段を持つと同義。

【先制攻撃力】

- 潜在的敵国が武力行使を行う前に先んじて攻撃を加えることで、大きな戦術的な利益を生む能力
- 新たな軍事技術の開発や兵器システムの運用が、相手国の軍事力を無効化したり、甚大な被害をもたらす
- 例： テロリズム、核兵器などの大量破壊兵器など

敵基地攻撃(先制攻撃)のモデル分析

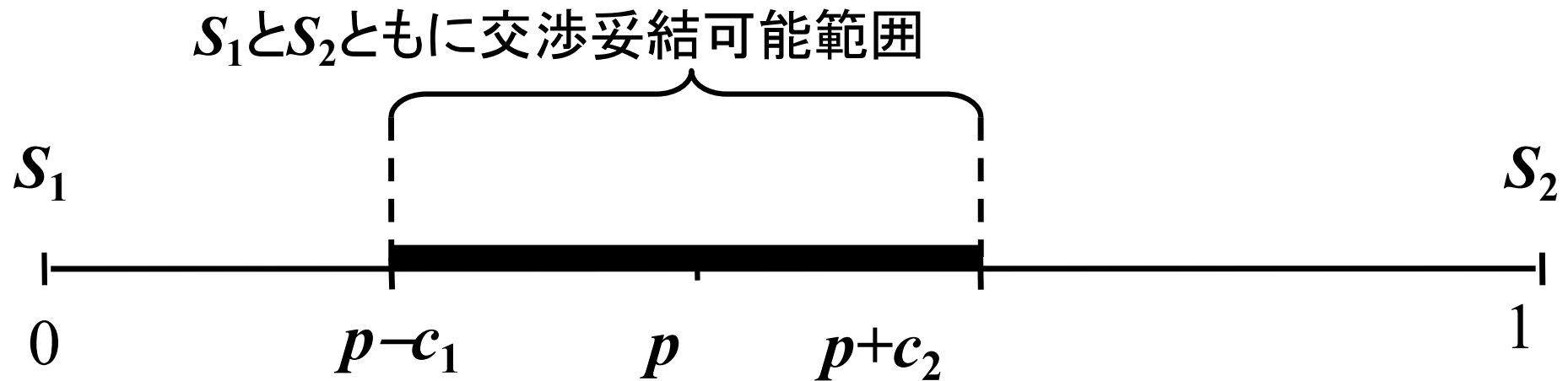
【先制攻撃(敵基地攻撃)の効果】

- 相手国の攻撃力の弱体化 → 戦術的優位性を生む
 1. 先制国の戦勝確率 p を向上
 2. 先制国の戦争コスト c_i を低減

【先制攻撃(敵基地攻撃)の帰結】

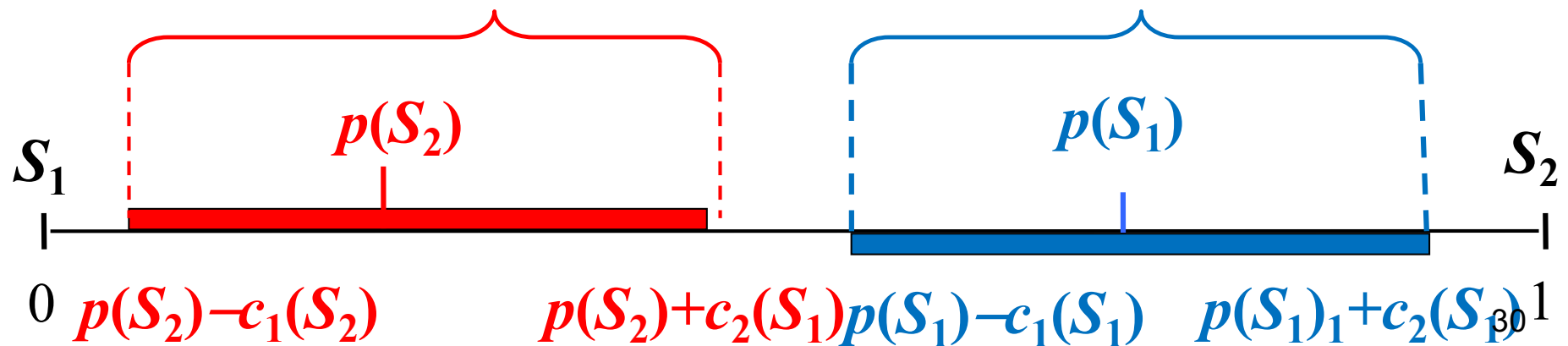
この分析にあたり、(1)標準モデルで上記の特徴を表現し、
(2)その帰結をコミットメント問題を使って考える

先制攻撃による交渉環境の変化



S_2 の先制を想定した平和解決

S_1 先制を想定した平和解決

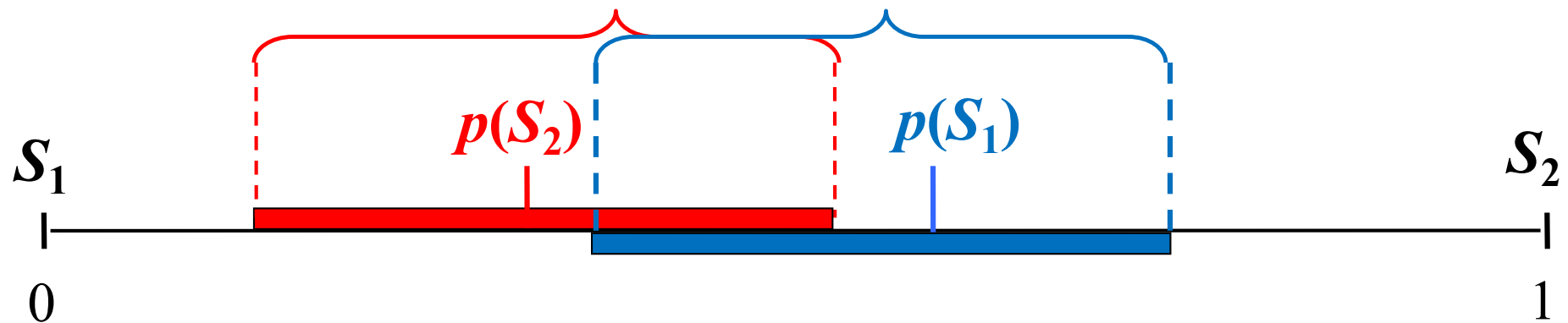


先制攻撃による交渉環境の変化

【前提】二つの平和解決範囲が重なるとき平和妥結は可能

S_2 の先制を想定した平和解決

S_1 先制を想定した平和解決



しかし、先制攻撃による戦術的優位性の効果が大い場合：

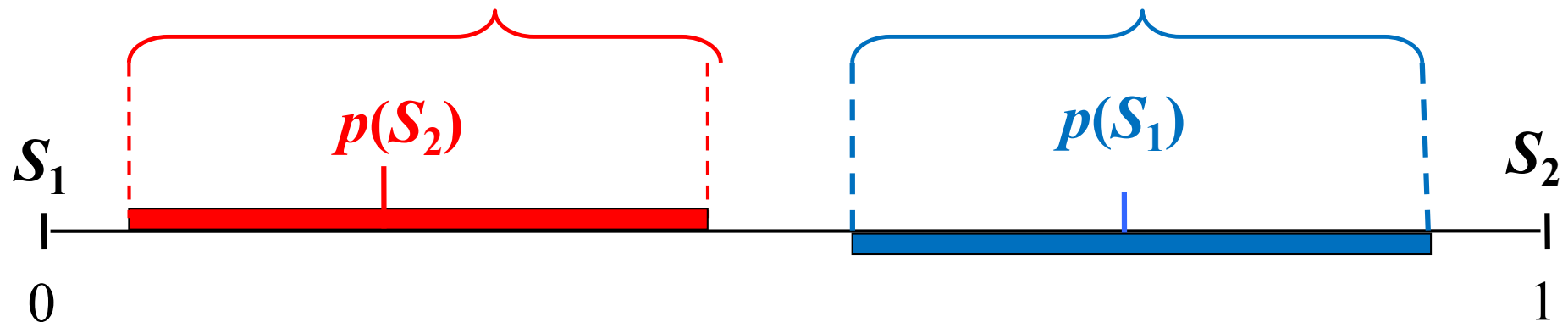
- $p(S_1)$ と $p(S_2)$ の差が大
- $c_1(S_1)$ や $c_2(S_2)$ が小

先制攻撃による交渉環境の変化

【前提】二つの平和解決範囲が重なるとき平和妥結は可能

S_2 の先制を想定した平和解決

S_1 先制を想定した平和解決



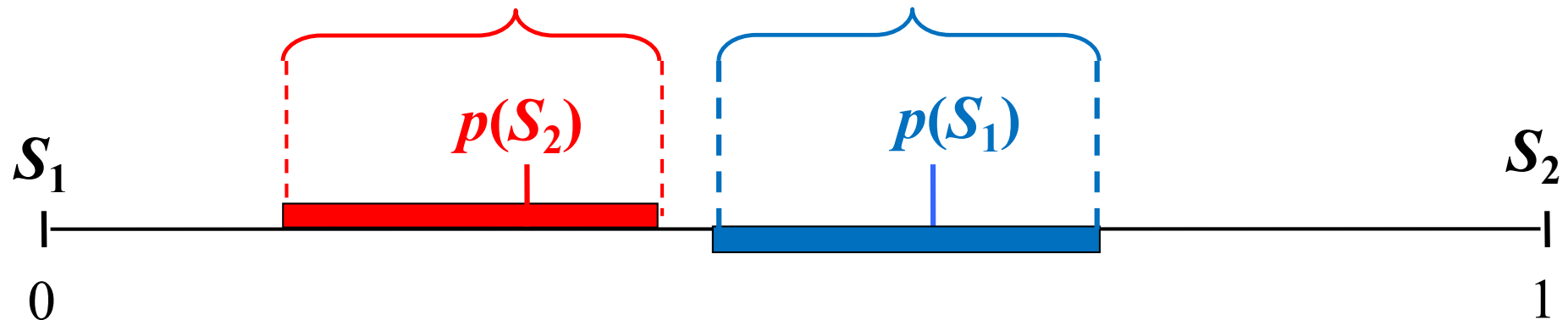
しかし、先制攻撃による戦術的優位性の効果が大い場合：

- $p(S_1)$ と $p(S_2)$ の差が大 \Rightarrow 二つの平和範囲の乖離拡大
 - $c_1(S_1)$ や $c_2(S_2)$ が小 \Rightarrow 二つの平和範囲の乖離拡大
- \Rightarrow 平和妥結ができない

先制攻撃による交渉環境の変化

【前提】二つの平和解決範囲が重なるとき平和妥結は可能

S_2 の先制を想定した平和解決 S_1 先制を想定した平和解決



しかし、先制攻撃による戦術的優位性の効果が大きい場合：

- $p(S_1)$ と $p(S_2)$ の差が大 \Rightarrow 二つの平和範囲の乖離拡大
 - $c_1(S_1)$ や $c_2(S_2)$ が小 \Rightarrow 二つの平和範囲の乖離拡大
- \Rightarrow 平和妥結ができない

先制攻撃による交渉環境の変化

【前提】 平和解決範囲が乖離した場合の平和の条件

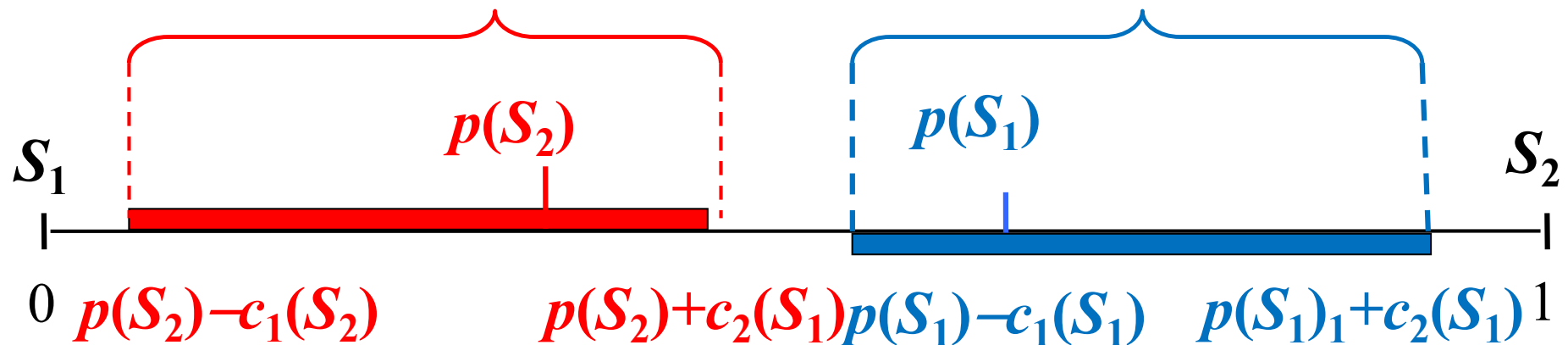
⇒ どの国が先制攻撃をするかについて合意が必要

- そのような合意にコミットメントできるのか？
- 先制攻撃しないというコミットメントは信憑性があるか？

そのような合意はできない

S_2 の先制を想定した平和解決

S_1 先制を想定した平和解決



敵基地攻撃(先制攻撃)のモデル分析

【先制攻撃(敵基地攻撃)の効果】

- 相手国の攻撃力の弱体化 → 戦術的優位性を生む
 1. 先制国の戦勝確率 p を向上
 2. 先制国の戦争コスト c_i を低減

【先制攻撃(敵基地攻撃)の帰結】

- 先制攻撃を行うことが双方にとって有利 交渉可能範囲がS1とS2で違う
 - いずれが先制するかによって戦略的環境が変化
- 帰結1：国際紛争の平和的解決および戦争回避が困難となる
- 帰結2：双方ともに、先制攻撃への誘因を与える (早撃ちガンマンと同じ)
→ 戦略的安定性を損なう

先制攻撃の例

【先制攻撃で始まる戦争】

歴史的には稀 (WWI、中国の朝鮮戦争介入、第3次中東戦争)

【安全保障政策としての先制攻撃の採用】

- **ブッシュ・ドクトリン**: テロリスト庇護国に対する攻撃
- **イスラエルの先制**: イラク原子炉爆撃事件(1981)

【先制攻撃による戦略的不安定性への対処】

米国・ソ連: 核競争における安定性・均衡維持の必要性

→ 先制攻撃へのインセンティブを打ち消し合う必要性

- **相互確証破壊(MAD)**: **懲罰抑止** 第二撃能力
- **AMB条約**: 自国のミサイル防衛を制限し、先制攻撃に対する脆弱性を高める

敵基地攻撃・抑止・安全保障

敵基地攻撃のインプリケーション

1. 拒否的抑止としての先制攻撃の役割

- 戦略的安定性を損なう（先制攻撃のコミットメント問題）
- 武力衝突回避の難易度を上げる

⇒ 技術的に可能でも、安全保障政策としての効能は自明でない

2. 拒否抑止・先制攻撃の戦略問題に対する過去の解決策

- 先制攻撃へのインセンティブを打ち消す必要

[MADの教訓] 懲罰抑止で相手の誘因を消す：民間攻撃

→ 敵基地・策源地など軍事目標のみでは「懲罰」にならない

[ABM条約の教訓] ミサイル防衛を弱体化し自国の誘因を消す

→ 相手の報復攻撃から防護 → 報復を恐れずに先制攻撃可能 37

抑止の類型

抑止の類型

- 緊急抑止 vs 一般抑止
→ どのような事態を抑止するのか？
- 直接抑止 vs 拡大抑止
→ 誰に対する抑止なのか？
- 核抑止 vs 通常抑止
→ どのような兵器の使用を抑止するのか？

- 否定抑止 vs 懲罰抑止
→ どのようなアプローチで抑止するのか？

研究者が議論する抑止は赤い四角。政策決定者はしたの否定vs懲罰、特に否定抑止。政策決定者、自衛隊は赤い四角の抑止の峻別を知らなかったりする。

抑止の類型：拒否 vs 懲罰

抑止のアプローチ

拒否(否定)抑止(deterrence by denial)

現代においては非現実的。
安全保障を確保する逆効果。

- 挑戦国の攻撃を事前に無力化(否定する)目的
→(攻撃やその策源の無力化)
- 古典的陣取り合戦以外では、実装は非現実的で広い条件下で逆効果
- 例：前方展開／即応○、ミサイル防衛△、先制攻撃×
→ 懲罰抑止と代わり、相手国を痛めつけることを前提としている。相手国の生命も守っていくという選択肢がない。アメリカ、drone 民間ダメージ大きい。

懲罰抑止(deterrence by punishment)

- 挑戦国に事後的に高コストな被害を与える脅しが目的
- The Power to Hurt →(国益のコアを毀損する脅し)
- 例：大量報復戦略(アイゼンハワー政権)
相互確証破壊(ケネディー政権)

非人道的、民間への攻撃ができることを示す。相手から攻撃されなければPower to Hurt を行使しないという安心供与と並行しなくてはならない。³⁹

相手国を傷つけない、相手国の命を守る安心供与を前提としている。否定抑止より人道的である。